

研 究 論 文

生徒の楽しみ方に対応した球技選択制授業の有効性 — 高等学校バスケットボール授業において —

松本 究* ・ 福本 敏雄** ・ 堤 公一**

The Effectiveness of the Ball Game Elective Class
in which Students Select and Enjoy their Game:
In Basketball Class of High School

Kihamu MATSUMOTO*, Toshio FUKUMOTO**
and Kouichi TSUTSUMI**

【要約】

本研究ではバスケットボールの授業を選択した生徒をさらに、競技用の規格品を用いて楽しむコース（クラブコース）と簡易化したコート、ボール、ゴールを用いて楽しむコース（エンジョイコース）を設定した授業を行うことで体育授業に対してどのような意識の変容が見られるかを検討した。

種目を選択するだけでなく、コート、ボール、ゴールなどを簡易化したコースをさらに選択できるよう設定しておくことは、体力テストの成績が低く、体を動かすことを苦手としている者でも運動の特性に触れて授業を楽しむことができ、さらに体育に対する意識の変容に有効な手段の一つであることが明らかとなった。

【キーワード】

バスケットボール、選択制授業、形成的授業評価、運動の有能感

1. はじめに

文部科学省の「スポーツ立国戦略」の重点戦略の中に、「ライフステージに応じたスポーツ機会の創造」があり、その目標の1つとして「豊かなスポーツライフを実現する基礎となる学校体育・運動部活動の充実を図る」が掲げられている。その実現の為の方策の一つとして、今日、多くの高等学校では、「選択制授業」が実施されている。しかし、高等学校に設置されている体育施設の多くは、スポーツ団体の競技ルールに基づく規格品がほとんどであり、体育授業はそれらをそのまま用いて実施している学校が多い。このことについて佐藤（1992）は、学習活動や学習意欲に対し、マイナスの条件として働き、その結果運動の特性に応じた学習課題の達成も困難となる場合があると述べている。

特にバスケットボールの授業においては、リングの高さや大きさ、コートの広さ、リングの大きさ、さらにはボールの大きさや重さもNBAや世界選手権、オリンピックなどに出場する一流選手が用いる同一の施設・用具を用いており、運動に対し、得意、不得意など様々な意識を持った生徒が混在する体育の授業でそのような規格品が用いられていることに強い違和感を持った。生徒の中にはプロ選手や一流選手が用いる施設・用具を用いて、ゴールを競い合うことを楽しんでいる者もいるかもしれないが、プロ選手や一流選手が用いる施設・用具と体育の授業で用いるものが同じであることからすると、体

*佐賀大学大学院教育学研究科

**佐賀大学文化教育学部

育の授業では、多くの生徒がリングが高くて狭い、ボールが大きくて重たいなどの理由から、バスケットボールが持つ特性であるボールをゴールに入れ合っ勝負を競うことを味わえていないのではないか。また、コートが広すぎて、体力的に低位な生徒にとって28m×15mのコートの中を走り回することはきついのではないかと考えた。

以上のことから、競技用の規格品を用いてフルゲームを楽しむコース（クラブコース）と簡易化したコート、ボール、ゴールを用いて簡易化されたゲーム¹を楽しむコース（エンジョイコース）を設定した授業を行うことで体育授業や体を動かすことに対し、どのような意識の変容が見られるかを検討した。

2. 研究目的

本研究では、球技選択制授業において、バスケットボールの授業を選択した生徒をさらに、競技用の規格品を用いるコース（クラブコース）と簡易化されたコート、ボール、ゴールを用いるコース（エンジョイコース）の2つのコースのどちらかを選択できるように設定した。種目だけでなく、自分の楽しみ方や体力に応じたコースを選択できる球技選択制授業を実施することによって、生徒の体育授業や体を動かすことに対する意識の変容を明らかにすることを本研究の目的とした。

3. 本研究の仮説

種目選択だけでなく、自分の体力や運動技能、さらには楽しみ方に応じたコースを選択できることは、多くの生徒が種目の特性を味わい楽しむことができると同時に、体育授業や体を動かすことに対して、好意的にとらえるだろう。

4. 研究方法

(1) 調査時期と期間

平成24年12月～平成25年1月にかけて9時間実施した。

(2) 調査対象

佐賀県内K高等学校においてバスケットボール授業を選択した1年生78名

内訳

クラブコース選択者58名、エンジョイコース選択者15名

クラブコースからエンジョイコース変更者4名

文部科学省準拠新体力テスト²の成績別に上位群、中位群、下位群に分類した。

上位群…新体力テスト A, B評価

中位群… // C評価

下位群… // D, E評価

¹ 簡易化されたゲームとは、ルールや形式が一般化されたゲームを児童の発達の段階を踏まえ、プレーヤーの数コートの広さ（奥行きや横幅）、プレー上の制限（緩和）、ボールその他の運動用具や設備など、ゲームのルールや様式を修正し、学習課題を追求しやすいように工夫したゲームをいう。

² 今後、他の選択種目においても研究を行うことを考え、全国的に共通で、客観的なデータである新体力テストのデータを用い分類することにした。

表1 コース別 男女人数について

| コース名 | 上位群 | 中位群 | 下位群 | 未測定者 | 合計 |
|---------------|----------------|----------------|----------------|-------|----------------|
| クラブ | 男子 8名 女子 8名 | 男子13名 女子14名 | 男子 5名 女子10名 | 女子 1名 | 男子26名 女子33名 |
| エンジョイ | 男子 1名 | 男子 1名 女子 2名 | 男子 4名 女子 7名 | | 男子 6名 女子 9名 |
| クラブ →エンジョイ | | 女子 3名 | 女子 1名 | | 女子 4名 |

表2 コース別用具, ルールについて

| コース | リングの高さ リングの直径 | コート | ボール | ゲーム 時間 | ゲーム 人数 | ドリブル の有無 | チーム |
|-------|------------------|-----------------------------|-----------------------|-----------|-----------|-------------|------|
| クラブ | 305cm 45cm | 26m×15m | バスケットボール 重さ510g | 3分間 | 5対5 | 有 | 男女別 |
| エンジョイ | 190cm 60cm | バドミントン コート 13.4m×6.1m | 直径20cm, 重さ100gのボール | | 3対3 | 無 | 男女混合 |

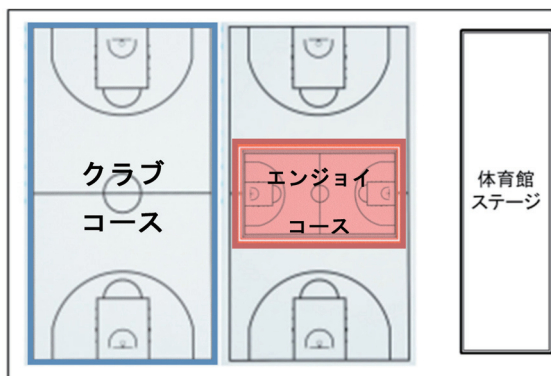


図1 コート配置図



図2 エンジョイコース 使用ゴール・ボール

(3) 指導者

教諭歴12年でバスケットボールを専門とする高等学校保健体育科の教諭である。

(4) 学習のねらいと道すじ

①学習のねらい

- | | | |
|----------|------|--------------------------------|
| クラブコース | ねらい1 | 今持っている力でゲームを楽しむ。 |
| | ねらい2 | 作戦やフォーメーションを使ってゲームを楽しむことができる。 |
| エンジョイコース | ねらい1 | 今持っている力でゲームを楽しむ。 |
| | ねらい2 | 自分たちに合ったやさしいルールでゲームを楽しむことができる。 |

②学習の道すじ

表3 学習のねらいと道すじ

| | 1 | 2 | 3 | 4 | 5 | ⑥ | 7 | 8 | 9 |
|---------------------|------------|------------|---|---|---|------|---|---|---|
| 0分 ↓ ↓ 50分 | 試しの ゲーム | シューティングゲーム | | | | | | | |
| | | ねらい1 | | | | ねらい2 | | | |
| | まとめ | | | | | | | | |

「楽しい体育³」を提唱している佐伯（2006）は、「競技スポーツではゲーム中心の過程が計画されなければならない。子どもの欲求は練習にではなく、ゲームにあるからである」と述べている。そこで、今回の授業では、今まで著者が行ってきたバスケットボールの授業、練習→ゲームという流れではなく、今回の授業ではまず、ドリルゲーム⁴として、シューティングゲーム⁵を実施し、その後は全てゲームの時間として実施した。

また、6時間目の最初にコース変更の時間を設定し、希望者がコース変更できるようにした。

(5) 実施方法

① 質問紙調査

授業前の実態として、小学校、中学校、高等学校における体育授業、小学校、中学校におけるバスケットボール授業について、体を動かすことについての好嫌を、授業後の実態として、今回行った授業やゲームの感想、今後実施してみたいゲームについて調査を行った。

② ゲームデータ

ゲーム中に得られた触球数、シュート試投数、成功数、シュート成功率

③ 形成的授業評価

毎時間、授業終了時に、9項目の形成的授業評価（高橋, 1994）を実施した。

④ 体育授業診断的総括的評価

高田・岡澤他（2000）によって作成された授業評価尺度を用いて、バスケットボール授業全単元開始前、全単元終了後に体育授業に関する評価を実施した。

⑤ 運動の有能感調査

岡澤ら（1996）によって作成された運動有能感測定尺度を用いて、バスケットボール授業全単元開始前、全単元終了後に運動の有能感に関する調査を実施した。

(6) 以前の授業実践と今回の授業の相違点

表4 以前の授業実践と今回の授業の相違点

| | 練習時間 | ゲーム時間 | 1時間の授業のゲーム回数 |
|-------|------|-------|--------------|
| 以前の授業 | 有 | 5分間 | 3回 |
| 今回の授業 | 無 | 3分間 | 3～4回 |

³ 楽しい体育とは、運動を行う者の欲求（競争・達成・模倣・克服）から運動の特性を捉え、その充足に主眼を置き、誰もが運動の楽しさに触れることを目指した体育学習の考え方。

⁴ ドリルゲームとは、ボール操作の技術や動き方に関わる練習内容をゲーム化したもの。

⁵ シューティングゲームとは、自分が打ちたい場所（2～9時間目まで固定）を決めて、20秒間で何本シュートを決めることができるかを競うゲームのこと。このゲームの結果を実際のゲームに反映し、加点できるようにした。

5. 結果と考察

(1) ゲームデータ

①シューティングゲーム

シューティングゲームで得られたデータの試投数、成功数、成功率を2回目と9回目で比較したものである(図3, 図4, 図5)。試投数において、全ての群において伸びが見られ、クラブコース中位群, 下位群において、有意な差が見られた。成功数においても、全ての群において伸びが見られ、クラブコースの全ての群において有意な差が見られた。成功率においても全ての群において伸びが見られ、クラブコース上位群, 中位群において有意な差が見られた。

シューティングゲームでは、クラブコース選択者において試投数、成功数、成功率に有意な差が見られ、2回目から9回目の授業において、パスキャッチからシュートまでの動作やシュートの技能が高まったことが考えられる。しかしながら、エンジョイコースにおいては記録の伸びが見られたものの、有意な差が見られなかったことから、技能が高まったとは言い難いのではないかと考える。

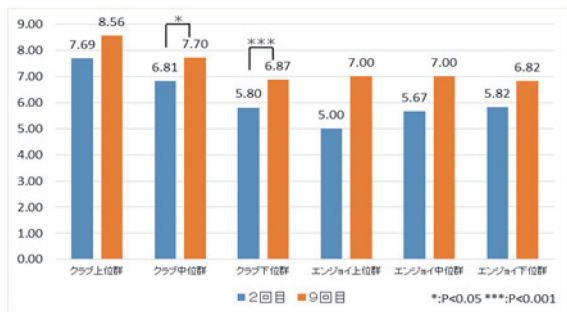


図3 シューティングゲーム 試投数

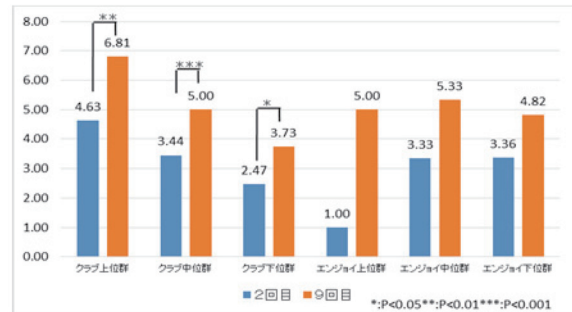


図4 シューティングゲーム 成功数

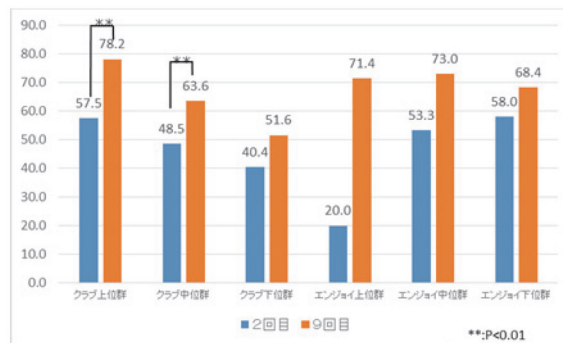


図5 シューティングゲーム 成功率

②実際のゲーム

2～9回目の授業におけるゲームの触球数、シュート試投数、得点数、シュート成功率を平均し、1ゲームあたりでコースや体力別に比較を行った(図6, 図7, 図8, 図9)。

触球数については、3対3でドリブル無のルール、バドミントンコートでゲームを行っているエンジョイコースが、クラブコースよりも、圧倒的に触球数が多くなった。両コースの下位群において、0.1%水準で有意な差が見られた。

シュート試投数については、1ゲームあたり、1本以上のシュートを打っているエンジョイコースに対し、クラブコース下位群では、1ゲームあたり0.88本となり、1ゲームでシュートを1本も

打てていない結果となった。両コースの下位群において、0.1%水準で有意な差が見られた。

得点についても、クラブコースよりもエンジョイコースが高くなった。エンジョイコース下位群は4ゲームで約6得点できるのに対し、クラブコース下位群は8ゲームで約2点の得点となった。両コースの下位群において、1%水準で有意な差が見られた。

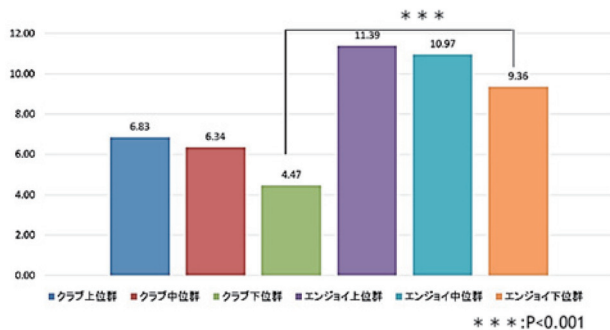


図 6 1ゲーム平均 触球数

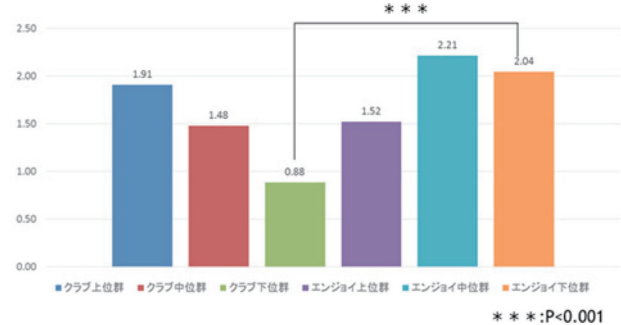


図 7 1ゲーム平均 シュート試投数

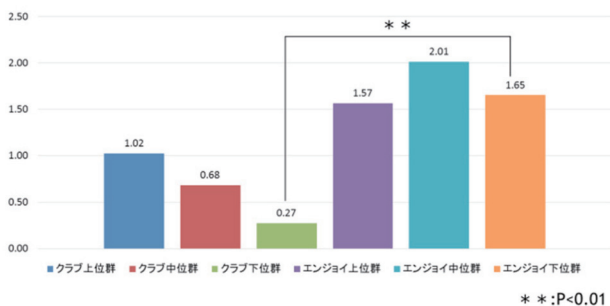


図 8 1ゲーム平均 得点数

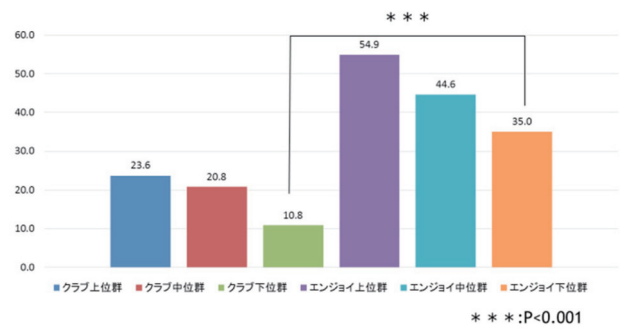


図 9 1ゲーム平均 シュート成功率

シュート成功率については、クラブコースの同じ体力の者と比較しても、エンジョイコースは圧倒的に高くなった。両コースの下位群において、0.1%水準で有意な差が見られた。

最後に2回目から9回目の授業での無得点者数を示したものである（図10）。エンジョイコースでは無得点者は1名もいないが、クラブコースの下位群では8名、中位群では4名、上位群では2名となった。

エンジョイコースはクラブコースより1ゲーム当たりの触球数、シュート数、シュート成功率、得点が大幅に上回り、得点においては2回目から9回目にかけて伸びていること（図11）、さらには無得点者がいないことから、バスケットボールの特性である「ボールをゴールに入れて相手と得点を競い合うことを楽しむ」ことが味わえているのではないかと考える。

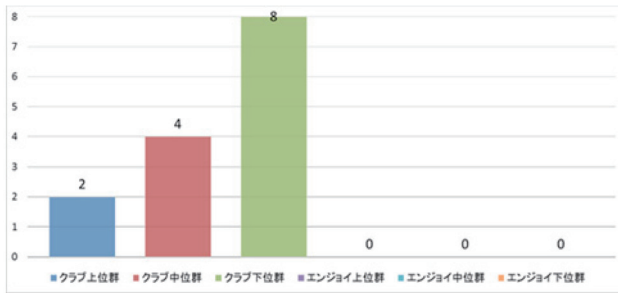


図 10 無得点者数

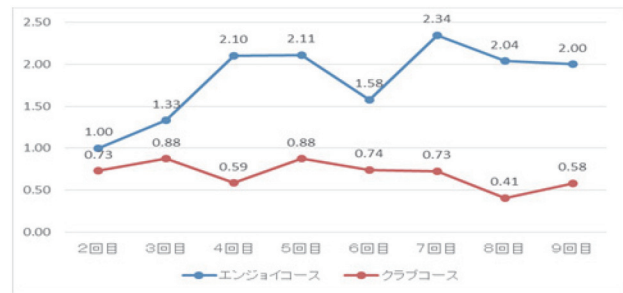


図 11 コース別 1ゲーム平均得点

(2) 授業評価

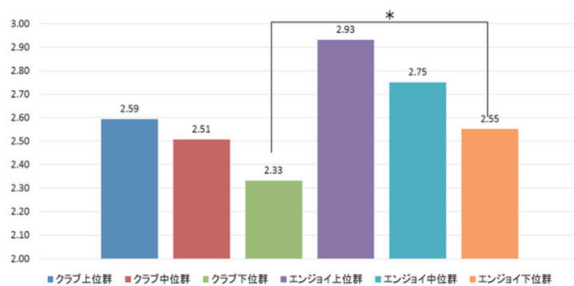
① 形成的授業評価

2回目から9回目の授業終了後に実施した形成的授業評価の質問項目は表5の通りである。この授業評価は、成果、意欲・関心、学び方、協力の4次元と9項目から成り立っている。成果の次元は「1. 感動の体験」、「2. 技能の伸び」、「3. 新しい発見」の3項目で、できたり、分かたりした時に大きな感動を味わうことができるというものを評価する。意欲・関心の次元は「4. せいっぱいの運動」、「5. 楽しさの体験」の2項目で、運動欲求の充足度を評価する。学び方の次元は「6. 自主的学習」、「7. めあてをもった学習」の2項目で、学習の自発性や学習の合理性を評価する。協力の次元は「8. なかよく学習」、「9. 協力的学習」の2項目で、友達との人間関係を評価する。回答については「はい」、「どちらでもない」、「いいえ」の順に3, 2, 1点と得点化した。さらに平均点を算出し、評価基準に照らし、5段階で評価した。

形成的授業評価の総平均の結果で、コース、体力別に比較したものである(図12)。体力別で比較したところ、エンジョイコースがクラブコースより高く、評定についてもエンジョイコースが高い結果となった。両方のコースの下位群において、5%水準で有意な差が見られた。

表 5 形成的授業評価 質問項目

| | |
|--------------|--------------------------------------|
| 1. 感動の体験 | 1. 深く心に残ることや、感動することがありましたか。 |
| 2. 技能の伸び | 2. 今まででできなかったこと(運動や作戦)ができるようになりましたか。 |
| 3. 新しい発見 | 3. 「あつ、わかった」とか「あつ、そうか」と思ったことがありましたか。 |
| 4. せいっぱいの運動 | 4. せいっぱい、全力をつくして運動することができましたか。 |
| 5. 楽しさの体験 | 5. 楽しかったですか。 |
| 6. 自主的学習 | 6. 自分から進んで学習することができましたか。 |
| 7. めあてをもった学習 | 7. 自分のめあてに向かって何回も練習できましたか。 |
| 8. なかよく学習 | 8. 友達と協力して、仲良く学習できましたか。 |
| 9. 協力的学習 | 9. 友達とお互いに教えたり、助けたりしましたか。 |

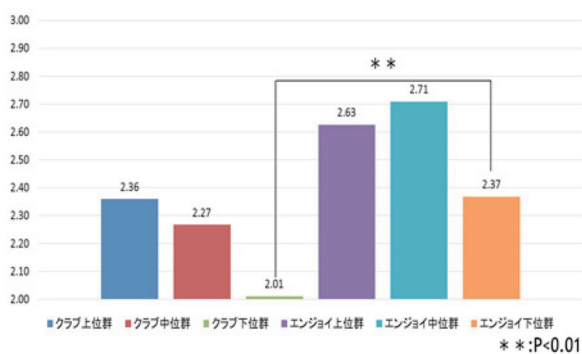


*:P<0.05

| | クラブ上位群 | クラブ中位群 | クラブ下位群 | エンジョイ上位群 | エンジョイ中位群 | エンジョイ下位群 |
|----|--------|--------|--------|----------|----------|----------|
| 評定 | 4 | 3 | 2 | 5 | 4 | 3 |

図12 形式的授業評価 総平均

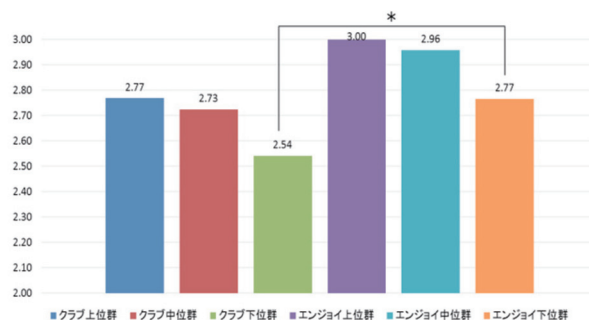
さらに、9項目のうち、「技能の伸び」、「せいっぱいの運動」、「楽しさの体験」、「めあてをもった学習」についてもコース、体力別に比較したところ（図13～16）、エンジョイコースが、クラブコースより高く、評定についてもエンジョイコースが高い結果となった。両コースの下位群において、有意な差が見られた。



** :P<0.01

| | クラブ上位群 | クラブ中位群 | クラブ下位群 | エンジョイ上位群 | エンジョイ中位群 | エンジョイ下位群 |
|----|--------|--------|--------|----------|----------|----------|
| 評定 | 3 | 3 | 2 | 4 | 4 | 3 |

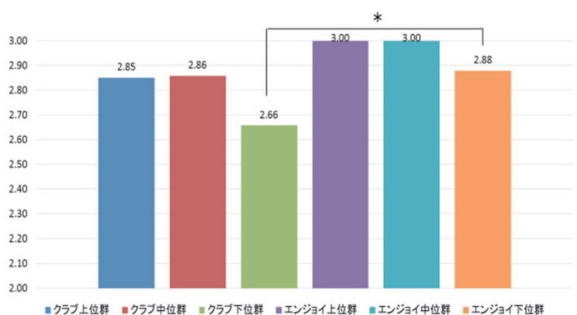
図13 形式的授業評価 技能の伸び



*:P<0.05

| | クラブ上位群 | クラブ中位群 | クラブ下位群 | エンジョイ上位群 | エンジョイ中位群 | エンジョイ下位群 |
|----|--------|--------|--------|----------|----------|----------|
| 評定 | 3 | 3 | 2 | 5 | 4 | 3 |

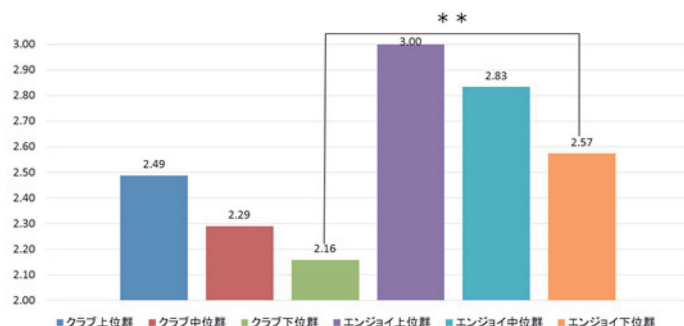
図14 形式的授業評価 せいっぱいの運動



*:P<0.05

| | クラブ上位群 | クラブ中位群 | クラブ下位群 | エンジョイ上位群 | エンジョイ中位群 | エンジョイ下位群 |
|----|--------|--------|--------|----------|----------|----------|
| 評定 | 4 | 4 | 3 | 5 | 5 | 4 |

図15 形式的授業評価 楽しさの体験



** :P<0.01

| | クラブ上位群 | クラブ中位群 | クラブ下位群 | エンジョイ上位群 | エンジョイ中位群 | エンジョイ下位群 |
|----|--------|--------|--------|----------|----------|----------|
| 評定 | 3 | 2 | 2 | 5 | 4 | 3 |

図16 形式的授業評価 めあてをもった学習

②体育授業診断的総括的評価

体育授業診断的総括的評価の質問項目（表6）と合計得点の事前調査と事後調査の比較（図17）である。回答については「はい」、「どちらでもない」、「いいえ」の順に3, 2, 1点と得点化し、総合評価はすべての項目の合計得点から算出した。

その結果、合計得点において、全ての群で伸びが見られた。特にエンジョイコース下位群においては、46.73から51.27と全ての群の中で一番の伸びが見られ、対応のあるT検定を実施したところ、1%水準で有意な差が見られた。クラブコース中位群、下位群においても有意な差が見られた。

さらに体育授業診断的総括的評価の合計得点を診断基準で見たとところ（図18）、エンジョイコース上位群を除いた群において、評価が高くなり、特に、エンジョイコース下位群では、診断基準“0”が9名から3名に、“+”が2名から8名に増加した。自分の楽しみ方に合ったコースが選択できたことで、体育授業に対する評価が全体的に向上したと思われる。

表 6 体育授業診断的総括的評価 質問項目

| | |
|---|--------------------|
| 1 私は、少し難しい運動でも練習するとできるようになる自信があります。 | 《はい・どちらともいえない・いいえ》 |
| 2 体育で、ゲームや競争をする時は、ルールを守ります。 | 《はい・どちらともいえない・いいえ》 |
| 3 体育のグループやチームで話し合う時は、自分から進んで意見を言います。 | 《はい・どちらともいえない・いいえ》 |
| 4 体育では、自分から進んで運動します。 | 《はい・どちらともいえない・いいえ》 |
| 5 体育で、ゲームや競争で勝つても負けても素直に認めることができます。 | 《はい・どちらともいえない・いいえ》 |
| 6 体育で、ゲームや競争をする時、ずるいことや命題などをして勝とうとは思いません。 | 《はい・どちらともいえない・いいえ》 |
| 7 体育は友達と仲良くなるチャンスだと思います。 | 《はい・どちらともいえない・いいえ》 |
| 8 体育をしている時、どうしたら運動がうまくできるかを考えながら勉強しています。 | 《はい・どちらともいえない・いいえ》 |
| 9 体育では、いたずらや自分勝手なことをしません。 | 《はい・どちらともいえない・いいえ》 |
| 10 体育で、「あつ、分かった」「ああ、そうか」と思うことがあります。 | 《はい・どちらともいえない・いいえ》 |
| 11 体育で体を動かすと、とても気持ちがいいです。 | 《はい・どちらともいえない・いいえ》 |
| 12 体育は、明るくて暖かい感じがします。 | 《はい・どちらともいえない・いいえ》 |
| 13 体育では、みんなが楽しく勉強できます。 | 《はい・どちらともいえない・いいえ》 |
| 14 体育をするとすばやく動けるようになります。 | 《はい・どちらともいえない・いいえ》 |
| 15 体育で運動するとき、自分のめあてを持って勉強します。 | 《はい・どちらともいえない・いいえ》 |
| 16 私は、運動が上手にできるほうだと思います。 | 《はい・どちらともいえない・いいえ》 |
| 17 体育では、簡単に運動することができます。 | 《はい・どちらともいえない・いいえ》 |
| 18 体育では、わかったと思うこと（知識）を実際に生かすことができます。 | 《はい・どちらともいえない・いいえ》 |
| 19 体育では、1つの運動がうまくできると、もう少し難しい運動に挑戦しようという気持ちになります。 | 《はい・どちらともいえない・いいえ》 |
| 20 体育では、クラスやグループの約束事を守ります。 | 《はい・どちらともいえない・いいえ》 |

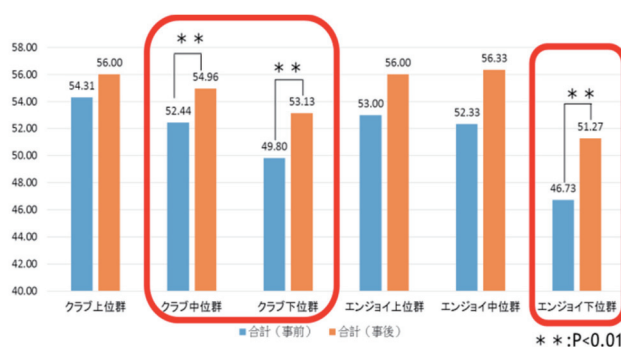


図 17 体育授業診断的総括的評価 総合評価

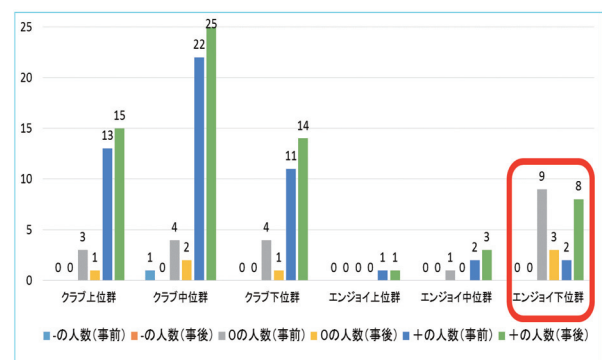


図 18 体育授業診断的総括的評価 項目別人数

③運動の有能感調査

運動の有能感調査の質問項目は表7の通りである。運動の有能感とは、3つの因子から成り立っており、第1因子「身体的有能さの認知」、第2因子「統制感」、第3因子「受容感」となっている。「身体的有能さの認知」は質問項目の1, 2, 8, 10で、自己の運動能力、運動技能に対する肯定的認知を、「統制感」は質問項目の3, 4, 11, 12で、自己の努力や練習によって運動をどの程度コ

ントロールできるかを、「受容感」は質問項目の5, 6, 7, 9で、運動場面で教師や仲間から受け入れられているかをそれぞれ示している。

その中でも、統制感については、両方のコースの全ての群において、伸びが見られ（図19）、エンジョイコース下位群においてのみ、5%水準で有意な差が見られた。簡易化されたゲームで用いたボールやゴールによって、シュートや得点が容易にその結果、「努力すればできる」や「あきらめないで練習すればできる」といった統制感の向上につながったと思われる。

身体的有能感の認知、受容感、運動有能感の合計においては、両コースの全ての群において有意な差は見られなかった。

表 7 運動の有能感調査 質問項目

| | | | | | |
|--|---|---|---|---|---|
| 1 運動能力が優れていると思います。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 2 たいていの運動は上手にできます。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 3 練習をすれば、必ず技術や記録は伸びると思います。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 4 努力さえすれば、たいていの運動は上手にできると思います。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 5 運動をしている時、先生が励ましたり応援してくれます。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 6 運動をしている時、友だちが励ましたり応援してくれます。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 7 一緒に運動をしようと誘ってくれる友達がいます。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 8 運動の上手な見本として、よく選ばれます。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 9 一緒に運動する友だちがいます。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 10 運動について自信を持っているほうです。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 11 少し難しい課題でも、努力すればできると思います。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |
| 12 できない運動でも、あきらめないで練習すればできるようになると思います。 | 5 | 4 | 3 | 2 | 1 |

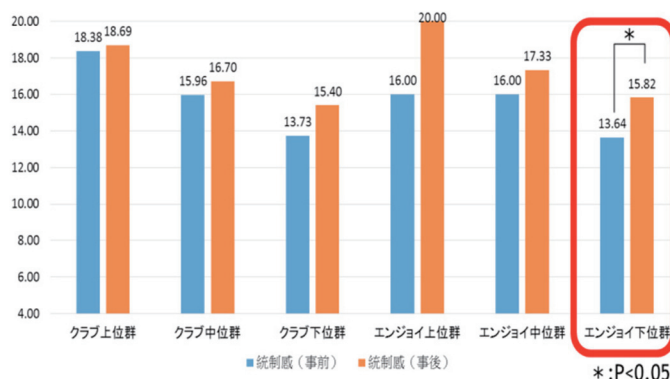


図 19 運動の有能感 統制感 事件事後比較

(3) 事前調査, 事後調査結果

①コース別, 体力別得点比較

図20は「バスケットボールは好きか」について、単元開始前と単元終了後に調査した結果である。この調査は「とても好き」を6点、「好き」を5点、「どちらかといえば好き」を4点、「どちらかといえば嫌い」を3点、「嫌い」を2点、「とても嫌い」を1点と点数化した。その結果、両コースの全ての群において伸びが見られ、特にエンジョイコース下位群においては、事前調査で3.82、事後調査で5.09となり、1.27ポイント増加と一番増加する結果となった。対応のあるT検定を実施したところ、エンジョイコース下位群、クラブコース中位群、下位群において、有意な差が見られた。

図21は「体育は好きか」について調査した結果である。「バスケットボールが好きか」と同様に、点数化を行った結果、両コースの全ての群で、伸びが見られた。特にエンジョイコース下位群においては、1.00ポイント増加と一番増加する結果となった。対応のあるT検定を実施したところ、エンジョイコース下位群、クラブコース中位群、下位群において、有意な差が見られた。

図22は「体を動かすことは好きか」の調査結果で、同様に点数化を行った。クラブコースとエンジョイコースの上位群については、単元開始前と終了後では数値に変化が見られなかった。他の群では伸びが見られ、特にエンジョイコース下位群では0.82ポイント増加し、他の群と比べ一番の伸びが見られたものの、有意な差は見られなかった。エンジョイコース中位群において、5%水準で有意な差が見られた。

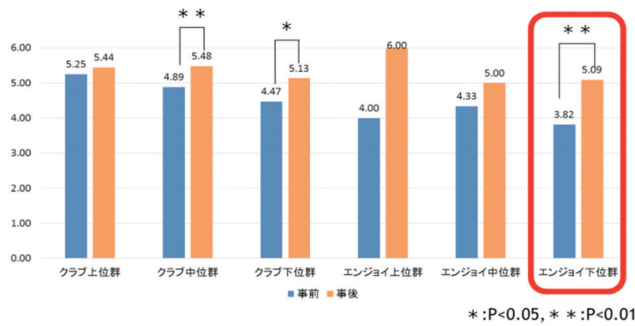


図 20 バスケットボールは好きか 事前事後比較

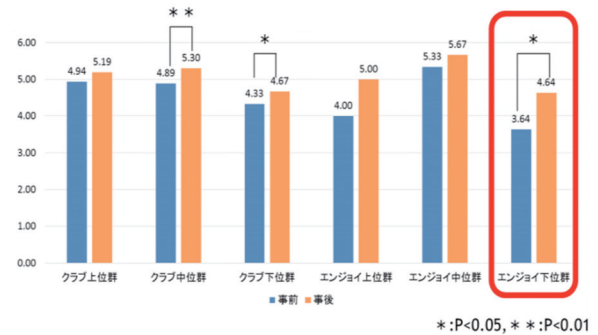


図 21 体育は好きか 事前事後比較

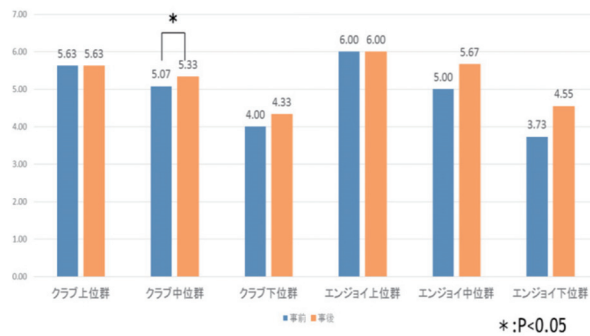


図 22 体を動かすことは好きか 事前事後比較

②コース別人数比較

図23～26は単元開始前，単元終了後の人数を比較したものである。

バスケットボールに対して好意的にとらえる生徒は，エンジョイコースでは，80%（12名）から93.3%（14名）に，クラブコースでは，93.2%（55名）から96.6%（57名）と増加した。好意的にとらえる生徒の人数が増えただけでなく，図23の通り，好意的だった生徒がより好意的にとらえる結果となった。

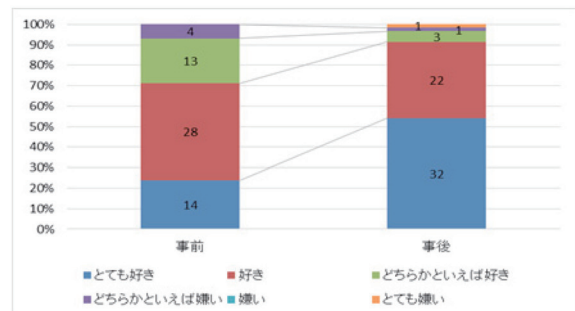
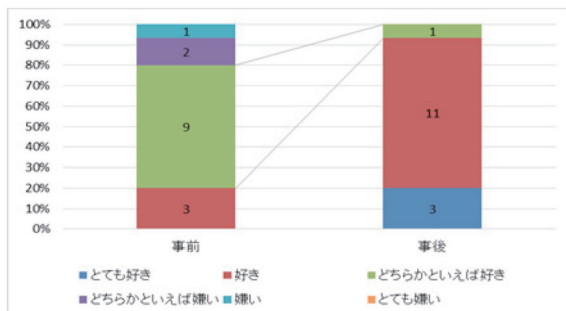


図 23 バスケットボールは好きか コース別 事前事後比較 （左…エンジョイ 右…クラブ）

「バスケットボールは得意か」の質問に対しては、エンジョイコースでは6.6%（1名）から33.3%（5名）になったのに対し、クラブコースでは61%（36名）から72.9%（43名）の生徒が得意と感じるようになった。不得意と感じる生徒においても、「不得意」、「とても不得意」と感じる生徒が減ったことから、今回のコース選択可能な授業において、自分の楽しみ方にあった取り組みができたことで、より得意に感じるようになったのではないかと考える。

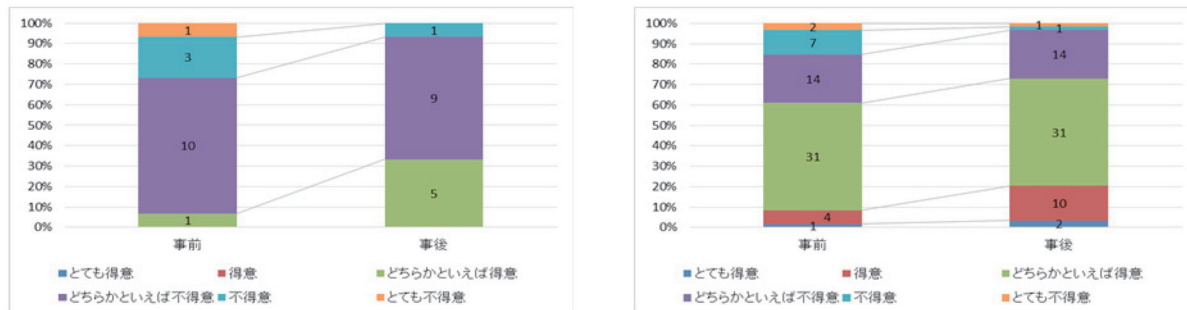


図 24 バスケットボールは得意か コース別 事前事後比較（左…エンジョイ 右…クラブ）

体育を好意的にとらえる生徒は、エンジョイコースでは66.6%（10名）から93.3%（14名）に、クラブコースでは89.8%（53名）から96.6%（57名）と増加する結果となった。全体的に単元開始前から体育対し、好意的にとらえている生徒が多かったものの、今回のコース選択が可能な授業によって、体育をより好意的にとらえる生徒が増加したものと考える。特にエンジョイコースにおいて、「どちらかといえば嫌い」と答える生徒が4名から1名になったことや、体育を「とても好き」、「好き」と答える生徒が増えたことは簡易化されたゲームで取り組んだことでバスケットボールが持つ特性に触れて楽しむことができた成果ではないだろうか考える。

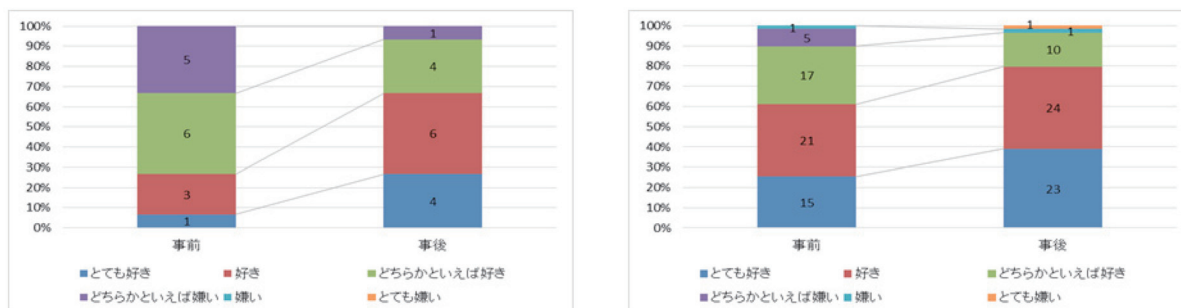


図25 体育は好きか コース別 事前事後比較（左…エンジョイ 右…クラブ）

体を動かすことを好意的にとらえる生徒は、エンジョイコースでは66.6%（10名）から93.3%（14名）と増加したのに対し、クラブコースでは変化が見られなかった。しかし、クラブコースにおいては、「どちらかといえば好き」と答えた生徒が事後調査において減少し、より好意的にとらえる生徒が増えた。また、エンジョイコースでは、「どちらかといえば嫌い」、「嫌い」と答えた生徒が事後調査において1名に減少したことから、両方のコースにおいて今回の取り組みの成果があったものとする。

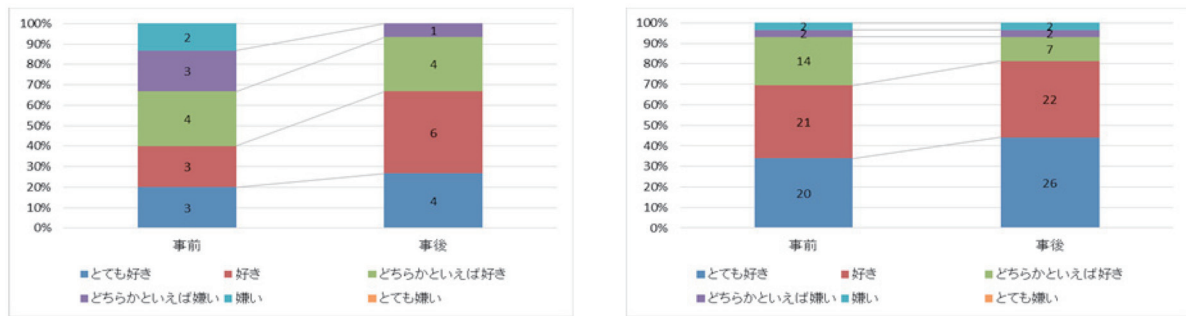


図 26 体を動かすことは好きか コース別 事前事後比較 (左…エンジョイ 右…クラブ)

③コース選択について

今回のコース選択可能な授業について調査したところ(図27), 99%(77名)の生徒がコース選択授業を, 肯定的に捉える結果となった。種目選択だけでなく, さらに自分の楽しみ方にあったコースを選択できることが生徒に受け入れられたものとする。

さらに, エンジョイコース選択者に対し, 「エンジョイコースを選択した理由」を質問したところ, 表8の通りとなった。エンジョイコースに対し, 興味を持った生徒だけでなく, バスケットボールや運動に対し, 劣等感を持った生徒が, エンジョイコースを選択したことが分かる。

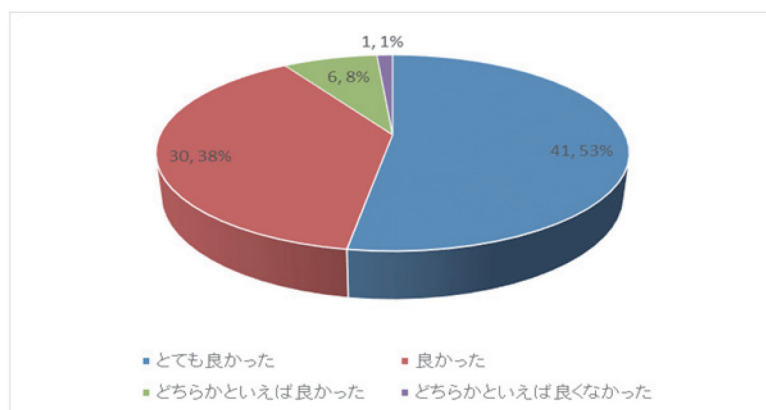


図 27 コース分けの授業について n=78

表 8 エンジョイコースを選択した理由

| | |
|-----------|--|
| A君 (上位群) | 普通のリングとは違うもので, してみたかったから |
| B君 (中位群) | おもしろそうだったから |
| Cさん (中位群) | 私の出身中学校はバスケ部がなかったので, どちらかというともみんなよりできたけど, 高校ではバスケ部がたくさんいて, バスケが上手な人から見られるのが恥ずかしかったから |
| Dさん (中位群) | バスケットがあまりできないから |
| Eさん (下位群) | みんなと楽しくバスケがしたかったから |
| F君 (下位群) | クラブコースは難しそうだったから |
| Gさん (下位群) | ボールにたくさん触れたかったし, たくさんシュートしたかったから |
| H君 (下位群) | 楽しそうだったから |
| Iさん (下位群) | クラブコースは, 出来る人ばかりだから, 自分はエンジョイコースで楽しみながらボールをいっぱい触りたかったから |

| | |
|----------|------------------------------------|
| Jさん（下位群） | 運動があまり得意ではないので、ただ楽しんでバスケットをしたかったから |
| K君（下位群） | バスケットボールが不得意だから |
| L君（下位群） | 最初は結構苦手だったから |
| Mさん（下位群） | バスケットをしたことがなかったから |
| Nさん（下位群） | バスケットボールがあまり得意ではないから |
| Oさん（下位群） | バスケットボールが不得意だから |

クラブコースからエンジョイコースの変更者は4名おり、変更した理由について質問したところ、表9の通りとなった。エンジョイコース選択者と同様に、バスケットボールに対し劣等感を持った生徒やエンジョイコースが楽しそうに取り組んでいる姿を見て、興味を持った生徒がコース変更したことが分かる。

表 9 エンジョイコースを選択した理由

| | |
|----------|--|
| Pさん（中位群） | クラブコースをしているときにエンジョイコースの人たちを見ていて、とても楽しそうだったから |
| Qさん（下位群） | クラブコースも楽しかったけど、エンジョイコースの人が楽しそうだったから |
| Rさん（中位群） | エンジョイコースも楽しそうだったから |
| Sさん（中位群） | バスケットボール部の人がいて、足を引っ張るのが嫌だったから |

6. 結果とまとめ

本研究では、種目選択だけでなく、自分の楽しみ方や体力に応じたコースを選択できる選択制授業を実施することによって、生徒の体育授業に対する意識の変容を明らかにすることを本研究の目的とした。その結果、以下のようなことが明らかになった。

1. エンジョイコースにおいて用いたコート、ボール、ゴールや簡易化されたゲームによって、ゲーム中の触球数、シュート試投数、シュート成功率、得点が確保され、得点が2回目から9回目にかけて伸びたことから、特に体力が低位な者のバスケットボールに対する意識だけでなく、さらに体育授業に対する意識を変容することができた。
2. 触球数、シュート試投数、得点数がクラブコースと比較し多いことから、エンジョイコースの形成的授業評価のせいっぱいの運動、楽しさの体験の数値が高くなった。
3. エンジョイコースにおいて、めあてを持った学習の数値がクラブコースよりも高くなった。理由として、ドリブルを用いず、パスだけで相手のゴールに向かって攻撃することや、ゲーム人数が3対3とクラブコースよりも少なく、パスをどこに出せばいいのかが分かりやすくなったことがめあてを持って学習しやすくなった要因である。
4. エンジョイコース下位群において、運動有能感調査の統制感が高くなった。理由として、簡易化されたゲームにおいて用いたボール、ゴールにより、シュートが容易になり、クラブコース選択者よりも得点の成功体験の積み重ねができたことが挙げられる。

5. エンジョイコースに興味を持った生徒だけでなく、バスケットボールや運動に対し、劣等感を持った生徒がエンジョイコースを選択していることが明らかになった。コース選択が不可能で、競技用の規格品を用いたゲームで一斉に取り組むことになると、バスケットボール経験者や上手な者に迷惑をかけるといった感情を持ったまま取り組むことになる。その解決のための方策の一つとして、自分の楽しみ方にあったコースを選択可能な授業を設定しておくほうがよい。

7. 今後の課題

1. エンジョイコースを選択した生徒たちを、エンジョイコース選択のままバスケットボールの授業を終了していいのか。それとも、最終的に競技用の規格品を用い、競技用のルールで実施するクラブコースで取り組んでいけるように授業を計画していくべきなのかということが挙げられる。
2. クラブコース選択者とエンジョイコース選択者の授業評価をどのようにしていくべきかということが挙げられる。競技用の規格品を用いたクラブコース選択者の評価が高くなり、簡易化したコート、ボール、ゴールなどを用いたエンジョイコース選択者の評価が低くなるということではなく、明確な評価基準を設けるようにしなければならないと考える。
3. エンジョイコースのコートの両隣に空いたスペースがあり、今回の授業では練習ができるコートとしての活用がされていなかった。練習ができるようにしたり、3on3ができるようなコースを設定して空いたスペースを活用できるようにしなければならないと考える。

引用・参考文献

- 福本敏雄(2002)指導計画の作成と手順. 高橋健夫・岡出美則・友添秀則・岩田靖「編著」. 体育科教育学入門. 大修館書店:p. 144
- 金崎良三 (1998) 社会人のスポーツ・コミットメントの形成に及ぼす学校体育の影響:pp. 28-30
- 真島茜・福本敏雄(2003)バスケットボール授業におけるゲーム環境 (その1) -リングの高さとゲーム時間-. 九州体育・スポーツ学会第52回大会号.
- 文部省(1993)高等学校保健体育指導資料-指導計画の作成と学習指導の工夫-.
- 文部科学省(2008)小学校学習指導要領解説体育編. 東洋館出版社:p. 73
- 文部科学省(2010)スポーツ立国戦略 - スポーツコミュニティ・ニッポン - :pp. 1-7
- 岡澤祥訓(2003)子どもの有能感の変化を見る. 高橋健夫「編著」. 体育授業を観察評価する - 授業改善のためのオーセンティック・アセスメント -. 明和出版:pp. 27-30
- 佐伯年詩雄(2006)これからの体育を学ぶ人のために. 世界思想社:p. 91
- 佐藤勝弘(1992)体育の学習環境. 宇土正彦「編著」. 体育科教育法講義. 大修館書店:pp. 100-107
- 世羅晶子(2000)生涯スポーツにおける学校体育のあり方-バレーボールの授業 (ソフトバレーボールの導入) を通して-. 広島大学附属中・高等学校研究紀要:pp53-58
- 鈴木理(2013)子どもの視点から出発するゴール型ゲーム. 体育科教育61(2). 大修館書店:pp. 10-13
- 高橋京子(1998)生活スポーツの楽しみ方の選択学習を取り上げた進んだ選択制授業. SPASS中学校体育・スポーツ教育実践講座(第3巻). 日本文教社:pp. 137-144
- 高田俊也・岡澤祥訓・高橋健夫(2003)体育授業を診断的・総括的に評価する. 高橋健夫「編著」体育授業を観察評価する - 授業改善のためのオーセンティック・アセスメント -. 明和出版:pp. 8-11
- 高橋健夫・長谷川悦示・浦井孝夫 (2003) 体育授業を形成的に評価する. 高橋健夫「編著」体育授業

を観察評価する - 授業改善のためのオーセンティック・アセスメント - . 明和出版: pp. 12-15

高橋健夫・立木正・岡出美則・鈴木聡(2010)新しいボールゲームの授業づくり. 体育科教育別冊. 大修館書店: pp151-157

山口奈央子(2006)バスケットボール授業のゲーム環境-リングの高さ及び待機者のゲーム集中度について-. 修士論文. 佐賀大学大学院, 教育学研究科.

吉永武史(2010)単元計画(ユニットプラン)の作成. 高橋健夫・岡出美則・友添秀則・岩田靖「編著」. 新版体育科教育学入門. 大修館書店: p. 125

吉永武史(2013)ゴール型ゲームを成功に導く授業計画の条件. 体育科教育61(2). 大修館書店: pp. 14-17